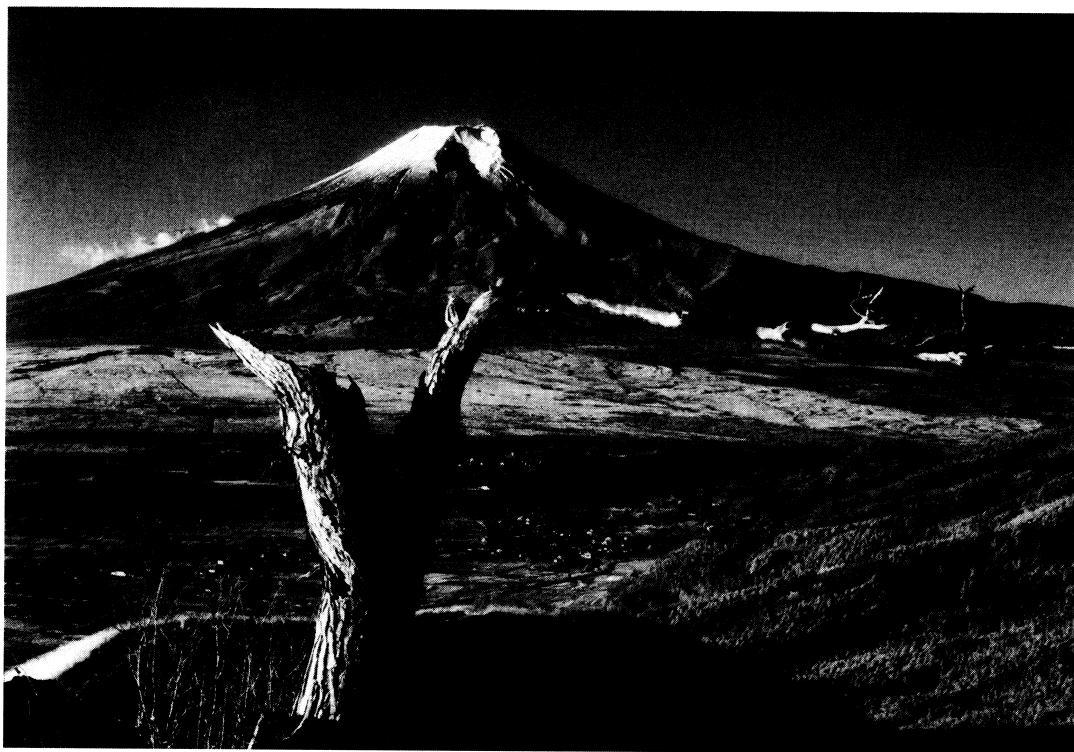


中央大学理工学部電気電子情報通信工学科

同窓会々誌



撮影 大越 功

2002-10

39号

平成14年度総会・懇親会は11月9日(土)

中央大学校歌

石川道雄 作詞
坂本良隆 作曲

一、草のみどりに風薫る

丘に目映まばゆき白門を

慕い集へる若人が

真理まことの道にはげみつゝ、

栄ある歴史を承け伝う

あ、あ、中央、我等が中央

中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも

揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕おごり奢の花ならで

みのりの秋やめざすらむ

学びの園こそ豊かなれ

あ、あ、中央、我等が中央

中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今

新しき世のあさぼらけ

胸に血潮の高鳴りや

湧く歌声も晴れやかに

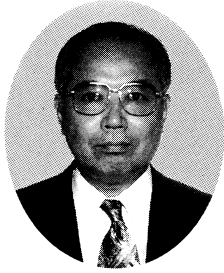
自由の天地ぞ展けゆく

あ、あ、中央、我等が中央

中央の名よ栄あれ

2002年10月 第39号 目次

中央大学校歌	2
会長挨拶	天野 浩志 4
会誌発行事業費および終身会費の集計報告	5
計報	6
太郎君、近況報告ありがとう	市川 友之 7
平成12年度会計報告	8
平成13年度会計報告	9
JABEEで大学と同窓会はどう変わるのか?	篠田 庄司 牧野 光則 10
命	竹中 四朗 14
“トドの詰まり文化論” その6	菱沼 一夫 16
心・ふれあいが活力に	田口 昭夫 21
同窓会新規入会者のご紹介	22
私の趣味は合唱です	秋田 隆史 23
日本は中国に飲み込まれるか	亀田 俊夫 24
同窓生からのお便り	25
編集後記	31
同窓会総会・懇親会開催のお知らせ	32



ごあいさつ

会長 天野 浩 志

同窓会会員の皆様、お元気にご活躍のことと拝察申し上げます。

同窓会は、かねてから財政危機に瀕しておりましたが、昨年の会誌で皆様に御芳志をお願い致しました「会誌発行事業費」の御納付につきまして多数の御協力を戴き、160万円を超える浄財を集めることができ、危機を脱出できる財政状態にまで回復し、本年以降も継続して会誌を発行できるようになりました。

幹事一同を代表しまして、御協力戴きました皆様に心から感謝申し上げます。

尚、「会誌発行事業費」の納付状況ならびに御協力戴きました方々の御芳名は別掲致します。

学科の動きをいくつかお知らせ致します。本年3月末日に、猪狩武尚教授が定年退職され、また、市川友之講師が定年扱退職されました。お二方は長年にわたり、本学科の教育に御尽力されましたことは、同窓生の良く知るところです。今後もお身体をご自愛しご活躍されることをお祈り申し上げます。

特に市川先生は、同窓会の副会長や常任幹事として事務局業務を一手に引き受けられ、同窓会が今あるのは市川先生の力が大であると思います。

教員の新規着任はありませんでしたが、教育技術員では、伊藤さんが退職され、新たに、安田さん、車さん、永松さんが着任しました。

理工学部の動きとしては、旧3号館が取り壊され、跡地に14階建ての新棟の建設が急ピッチで進められております。竣工は来年2月末の予定で、新棟には情報工学科、中大高校、学生生活関連施設、その他が入る予定で、残念ながら本学科は新棟には入りません。しかしながら、従来、情報工学科に貸していた部屋が

戻るようになっており、いくらかは現状の狭雑さが解消されるものと期待されます。

また、新棟には、理工学部各学科連合同窓会が希望している連合同窓会専用の部屋が用意される話が出ており、これも大いに期待したいものです。

11月9日(土)午後2時から、同窓会総会・懇親会が開催されます。詳細は、巻末の開催案内をご覧ください。ここ数年、総会を機会に同期生が集まり、「同期会」を開催する機運が広まっております。そのため、総会・懇親会の終了時刻を例年より若干早めの午後5時にしました。

未だ、同期会を開いていない卒業年度の皆様、今年こそ同期会を開いてみませんか？

同窓会では、名簿データベースを充実させており、同期会の開催に際して便宜を図る用意がありますので、事務局にご一報下さい。

本年も昨年の会誌に掲載し、好評を頂きました「同窓生からの便り」を掲載しました。皆様の交流の場として今後も続けて行きたいと考えておりますので、「返信はがき」に「お便り」をお書き下さい。1年後の掲載となりますが、会誌の目玉となるよう皆様と一緒に育てていきたいものです。

同窓会ホームページも更に充実させ、全同窓生への情報発信の場としていきたいと考えております。同期会・研究室OB会等で、ホームページを開設している場合は、内容を審査の上、リンクしますのでURLを事務局までお知らせ下さい。

(昭和39年卒)

同窓会ホームページURL : <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qindex.htm>

会誌発行事業費および終身会費の集計報告

昨年の会誌で、昭和年代卒業の皆様には「会誌発行事業費」の納付をお願いし、平成年代卒業の皆様で同窓会未入会の皆様には「終身会費」の納付をお願いしたところ、多数の皆様から御協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

ここに、平成14年7月12日現在で集計した結果とともに、御協力いただきました方々の御芳名を報告いたします。

尚、引き続き「会誌発行事業費」と「終身会費」の納付受付を行っておりますので、同窓で未納あるいは未入会の方がおられましたら御協力お願いの声をかけていただきたくお願いいたします。

会費発行事業費・終身会費報告

(平成14年7月12日現在)

種 別	人 数	口 数	振 込 金 額	差引手数料	収 入 金 額
会誌発行事業費	230	341	1,706,000	15,130	1,690,870
終 身 会 費	10		85,000	700	84,300
総 計	240	341	1,791,000	15,830	1,775,170

会誌発行事業費納付者御芳名

大蔵市蔵殿	今野利男殿	川喜多良行殿	鈴木均殿	堺真治殿	酒井悦治殿	柳原賢一殿	山口岩男殿	村島清殿	堀中武和殿	大木栄二殿	齋藤浩三郎殿	大越功殿	服部修一殿	藤本兼久殿	柳澤利文殿	山本憑殿	黒崎勝吉殿	小林健一殿	弓削田正和殿	橋本良治殿	中内康雄殿	鈴木克郎殿	佐藤計士殿	田中平八殿	竹中四郎殿	吉江実成彦殿	築山修治殿
重政弘康殿	橋村武司殿	千葉修殿	後藤國足殿	関光夫殿	渡邊馨殿	塚原達雄殿	石川茂殿	山井次朗殿	仲谷孝市殿	渡辺邦彦殿	竹内茂殿	大塚慎一郎殿	渡部一雄殿	寺西孝殿	会田精一殿	菱田武彦殿	小林邦男殿	伊藤恒雄殿	永井甫殿	高橋明殿	柳楽光廣殿	中村功殿	市川友之殿	内田信殿	中島立夫殿	伊藤春雄殿	加賀谷博殿
天野浩志殿	菱沼一夫殿	林親満殿	田中尚武殿	根岸邦光殿	大西雅和殿	山本立夫殿	五本武殿	古村紘殿	戸田紀良殿	小川敦久殿	木本晶久殿	江波戸勝樹殿	米倉孝榮殿	及川芳美殿	森竹広守殿	和泉良彦殿	秋山秀穂殿	矢口猛殿	斎藤嘉範殿	佐々木裕殿	新開盛治殿	秋山浩徳殿	島崎幸雄殿	田伏良雄殿	村井康男殿	松下達雄殿	神保昭殿
田口昭夫殿	柳下敏男殿	岡本呆殿	山口功殿	永田邦裕殿	坂本吉通殿	桐ヶ谷仁殿	中川士郎殿	小林史之殿	井上哲也殿	福田清殿	門原健男殿	齋藤榮喜殿	薄井道男殿	三浦元一殿	福田元紘殿	力石宏恒殿	寺山栄一殿	佐藤隆夫殿	梶村健殿	本荘一実殿	長谷川保殿	清水修殿	半間紀臣殿	竹端幸久殿	佐藤信夫殿	富田紘志殿	柳谷浩三殿
長浜宣郎殿	飯高秀男殿	多村正殿	藤城吉董殿	福田康宏殿	志村公夫殿	田村光東殿	町田晶彦殿	島村公三殿	高橋国明殿	神沼武臣殿	高橋洋三殿	栗原董光殿	中田靖夫殿	秋田隆史殿	萩野征治殿	青山宣弘殿	小川一雄殿	長谷川禎治殿	芳賀哲殿	山本一清殿	橋本正樹殿	塚田謙二殿	佐川孝文殿	河西宣良殿	柳谷浩三殿	富田紘志殿	神保昭殿

昭和33年卒 市川友之

卒業以来、随分経つね。あれから工業社会は、電子を中心として素人にも解りやすく進歩し、いまは、ナノテク時代に入ったと云われています。それなのに、僕の「実験科目」は進化が無かったね。

あのころ、君は、ある科目の単位を落として、先生が間違っていると言ひ、翌年の授業で、また同じ所を間違って講義している等と怒っていたね。今回の報告によると、穏やかな判断、冷静さ、と云うか相手、相対する間違いに対して、「適正な判断」が出来るように成長したと推察できますよ。これからは、定年が若返るかもしれないので、上へは急がず、時々「行動を大切に」してないように重み、信頼を重ねてゆく努力をして下さい。

さて、僕はこの3月をもって退職しましたが、学生時代を含めて48年間、伝統ある中央大学の中で生活することが出来ました。みなさんの学費、国民の税金、女房のヘソクリなど等を活用し、イキイキ、比較的健康に生きて来られました。「電気工学を学び、研鑽を怠らずその世界で国家社会に尽くしたい」と、あの広瀬敬一先生の面接で心にも無いことを申し上げ、入学できたのでありますが、方向は常に逆向きで、大学を後にする結末になりました。僕の足跡はどこにもありません。君にも、人生の先輩の一人として、世の中を常に見抜いているかのように、神のように、種々、なにやら浸透させてきましたが、プラスになっていないでしょう。

これまでの生き方を振り返ると、あらゆる事が他人の力によって支えられて来たと云うことです。勿論悪人も居ましたよ。それは云えませんが、「実験」に関しての恩人のひとり、山口高文先生です。この人が

僕の形、生き方の原図を描いた人ですね。今でも頭が下がります。実践を尊ぶ人でした。

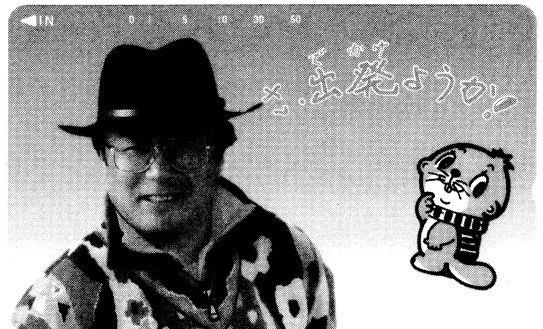
物の無い初期の工学部時代から苦勞された、安藤敏雄、有馬純照、深井昌、鈴木昭太郎の各先生も元気にお過ごしです。

「人の前に立てる人」は、力が浮き出ている真剣な表情を持つ人だね。少子化の影響もあって、学校経営、優れものを世に送る環境づくりなどに課題がありそうですが、高大一貫教育を考慮しながら大学が前進することを期待したいですね。

僕のいた事を思い出してくれて嬉しく思うよ。遠くなったことや雑事もありなかなか会えないが、こんどの同窓会の懇親会で是非会いたいね。体を休める時間、遊ぶ時間、貴重な飲む時間などを、すべて置いて出席してほしいね。それと、山にもおいでよ。いま僕の生活の中の課題は、ゴミの処理、環境を守る、少年に喝を入れる？事だね。

少し前、茅野市の名士とのお茶会でホラを吹いておいたよ。では、同窓会懇親会で会いましょう。

自分の事より他人の様子が気になる市川より。



平成12年度 会計報告

〈収入の部〉

前年度よりの繰越金	1,631,722円
平成12年度総会費	294,000円
預貯金利息	665円
名簿売上代金	4,000円
終身会費	540,000円
寄附金	34,000円
広告料	0円
計	2,504,387円

〈支出の部〉

平成12年度総会費	293,182円
通信及び印刷費	1,075,535円
アルバイト代	29,660円
事務・運営費	12,601円
名簿関係 印刷費	0円
通信費	340円
アルバイト代	0円
事務費	30,000円
慶弔費	1,827円
次年度繰越金	1,061,242円
計	2,504,387円

上記、平成12年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成13年11月15日

築山 修治 

平成13年度 会計報告

(自平成13年4月1日～至平成14年3月31日)

(本会計報告は、本年開催の総会で承認を諮る予定)

〈収入の部〉

前年度よりの繰越金	1,061,242円
平成13年度総会会費	483,000円
預貯金利息	473円
名簿売上代金	4,000円
終身会費	510,000円
寄附金	7,000円
会誌発行事業費寄附	1,736,000円
計	3,801,715円

〈支出の部〉

平成13年度総会費	401,575円
通信及び印刷費	931,523円
アルバイト代	24,840円
事務・運営費	53,716円
名簿関係 印刷費	0円
通信費	340円
アルバイト代	0円
事務費	30,000円
慶弔費	1,700円
次年度繰越金	2,358,021円
計	3,801,715円

上記、平成13年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成14年7月25日

梁山 修治 

JABEEで大学と同窓会はどう変わるのか？

篠田庄司（電気電子情報通信工学科教授）

牧野光則（情報工学科助教授）※

※1992～1996年電気・電子工学科勤務

1. はじめに

最近大学を取り巻く環境は厳しさを増している。特に技術系に対しては、研究面で産官学共同が叫ばれ、研究成果を論文だけではなく特許や外部資金獲得という形で示すことが求められている。また、教育面においては、「評価」や「認定」の名の下に学外からのチェックが入り始めた。この教育に関する学外からのチェックには(財)大学基準協会によるものなどがあるが、特に技術系学部教育に関するものとして「JABEE」（「ジャビー」と読む）による認定が最近大きな話題である。同窓会の皆さんにはJABEEをご存知だろうか？

2. JABEEとは何か、JABEEは何をするのか

JABEEとは1999年11月に設立された民間団体「日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering Education)」のことであり(www.jabee.org)。JABEEは大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する。万一認定されない場合、認定を申請したこと自体が伏せられるので、申請していないところと区別がつかないようにしている。また、認定には有効期間があるので、教育機関側は認定期間中でも次を意識して気を抜くわけにはいかない。

JABEEは以下の事項を認定審査の目的としている。

- (1) 技術者教育の質を保証する。すなわち、技術者の基礎教育を行っているプログラムのうち、JABEEが認定したものを公表することによって、そのプ

ログラムの修了生がそこで定めた学習・教育目標の達成者であることを社会に知らせる。

- (2) 優れた教育方法の導入を促進し、技術者教育を継続的に発展させる。
- (3) 技術者教育の評価方法を発展させるとともに、技術者教育評価に関する専門家を育成する。
- (4) 教育活動に対する組織の責任と教員個人の役割を明確にするとともに、教員の教育に対する貢献の評価を推進する。

これまで教育に関する評価といえば、「どのようなカリキュラムで何を教えるのか」が中心であった。すなわち、教育機関側による"Teaching"を主体に考えており、学生がどの程度修得したかではなかった。これに対してJABEEは「そのプログラムを修了した学生全員がプログラムの到達目標を達成したか、達成できる教育システムになっているのか」を点検する。すなわち、学生がきちんと学習し修得しているか、教育機関側は学生が学習し修得できるようさまざまな措置がシステムとして（特定個人の努力ではなくて）機能しているかがポイントである。これをJABEEでは「TeachingからLearningへ」や「input based assessmentからoutcomes based assessmentへ」というキーワードで示している。

3. JABEEの認定審査方針とは

プログラムの認定・審査の基本方針の一部は以下の通りである。

- (1) 認定・審査は、プログラムが認定基準を満足して

いるか否かについて、自己点検書の審査と実地審査によって確認し、判定することによって行う。

(2) 認定・審査にあたっては、特に次の4項目を重視する(各項目はPlan, Do, Check, Actionと呼ばれることもあり、まとめてPDCAともいう)。

① プログラムが保証する修了生の知識・能力等としての適切な学習・教育目標が設定されているか。

② プログラムは、自己点検書や学則、シラバス、パンフレット等に記載されている通りに実施されているか。

③ プログラムの修了生全員が設定したすべての学習・教育目標を社会の要請する水準以上で達成しているか。

④ 教育の継続的改善システムが機能しているか。

(3) プログラムの独自性を尊重する。

(4) 教育機関の教育の改善を支援する。

① プログラムが保証する修了生の知識・能力等としての適切な学習・教育目標が設定されているか。

② プログラムは、自己点検書や学則、シラバス、パンフレット等に記載されている通りに実施されているか。

③ プログラムの修了生全員が設定したすべての学習・教育目標を社会の要請する水準以上で達成しているか。

④ 教育の継続的改善システムが機能しているか。

すなわち、プログラムは社会が要請する水準あるいはそれ以上の学習・教育目標を掲げ、それを公開しなければならない。そして、その目標を達成するための教育内容(カリキュラムや達成度評価基準を含む)を設計し、シラバスなどによって公開し、その通りに実施し、自らが掲げた目標を達成していることをプログラム側がJABEEに対して証明しなくてはならないので

ある。JABEEが審査するのはプログラムが提示する証明の妥当性が中心なので、プログラムの画一性は求められていない。したがって、特に私学は建学の理念からつながる各プログラムの独自性を発揮できる。しかし、目標達成の自己証明責任があるので、詳細すぎる、あるいは、大雑把過ぎる目標の設定は問題を複雑にするので、バランス感覚が求められていることは確かであろう。

4. 電気電子情報通信工学科の取組み

電気電子情報通信工学科は近い将来の審査申請を目指してカリキュラム改正を含む教育プログラムの点検・改善を進めている。本学科は「電気・電子・情報通信およびその関連分野」にて審査を希望する見込みである。審査・認定にあたっては、JABEEはそれぞれの技術者教育プログラムが属する分野を担当する技術系学協会と密接に連携することになっている。この分野は、電気学会ならびに電子情報通信学会が共同して担当する。両学会ではそれぞれ対応組織を設置し、本年からの審査の本格化に備えている。このうち電子情報通信学会ではこれまでの対応組織を拡充・発展させ、本年4月に認定企画実施委員会を発足した。この委員会では認定審査に関わる部門、審査員研修・教育機関への講習を担当する部門、この技術分野の要件等を担当する部門、教育貢献に関する部門を立ち上げた。すなわち、認定を受ける側・審査を担当する側の両面にわたって学会は窓口を設けている。この認定企画実施委員会に篠田が副委員長として、牧野が幹事として加わっている。さらに篠田はJABEE本体の基準・試行委員会委員、認定・審査調整委員会委員などJABEEの基準策定から認定審査の実際に至るまで、その中枢に深く関与している。また、学科には審査員研修を既に受講した教員もいる。認定審査を受ける側にとって、認定審査を行う側の情報は極めて重要であるので、学会の場

を通じた最新情報の収集にも気を配っている。

5. 同窓会が学科ならびにJABEEのできることはJABEEの認定・審査は審査チームと呼ばれる技術者・専門家による実地審査が重要な要素を占めている。この審査チーム（審査長1名、審査員2～4名が標準的な構成）はプログラムの所属する分野の学協会が候補を推薦し、プログラムとの利害関係をチェックした上でJABEEが正式に任命する。この審査チームには原則として実務経験者を含むことが定められている。これは、JABEEによる認定・審査が教育機関関係者のみで行われて社会の要請から遊離する危険を防ぐためであろう。企業に勤務されている方にとって審査員(旅費等の必要経費は出るが基本的にボランティアである)を務めることは、本務とは無関係であり何のメリットも感じないかもしれない。しかし、この認定審査は企業に入社するさまざまな大学の卒業生の能力を保証するためでもある。また、このような認定審査の先輩であるアメリカでは、審査員を務めたことはその分野の専門家であり、かつ、技術者教育に関して熱心だとみなされ、その方のスキルの証明として有効であると聞いている。日本では近い将来企業から大学教員に転進される場合、JABEE審査員経験者かどうかは技術者資格とならぶ重要なポイントになる可能性がある。

このように、企業に勤務されている方でも直接的・間接的にメリットがあるので、同窓会の皆様には是非審査員への道を歩んでいただきたい。審査員になるためには、まず学協会が開催する審査員研修会を受講し、その後実際の審査にオブザーバとして参加することが必要である（始まったばかりの現在ではオブザーバ経験は必須ではないが、近い将来は必須）。

以上は同窓会という組織ではなく、技術者として活躍している同窓生としてJABEEの活動に協力できる事項である。一方、同窓会組織が本学科の教育システム

に協力できる事項がある。前述の通り、JABEEは教育機関の継続的な教育改善を要求している。図は教育プログラムの継続的改善の例であるが、この二重ループの中に「外部からの評価・要望など」という項目があることに注目いただきたい。JABEEではプログラムの設計、教育システムの構成についても雛型を用意せず、それぞれの教育機関の事情に即したものを作るよう求めている。但し、プログラムの質を年々向上させるために、外部からの要望に配慮することが必要である。

すなわち、教育機関の都合だけで学習・教育目標や教育内容・達成度基準を定めてはならず、卒業生が将来活躍する場である社会の要望を収集し、プログラムの改善につなげなければならない。この意味で学科の理念と歴史に通じ、かつ、社会の要求を把握している同窓会に寄せる期待は大きい。ただし、プログラム側は自己証明責任を求められているので、要望を出す方にも個人的感情などによる根拠不明なものを排し、責任をもってその要望に妥当性があることを示していただきたい。お互い「言いつばなし」は許されないのである。

6. むすび

JABEEは高等教育機関に対して、教育プログラムが設計通り(あるいはそれ以上に)学習・教育がなされており、継続的に改善・発展していることを自ら証明するよう要求している。このような認定審査に大学は慣れておらず、ここ数年は教育機関、審査チーム、学協会、そしてJABEEそのものも混乱が続くかもしれない。JABEEは民間団体であるので、認定審査を受けるかどうかは教育機関側の自由である。JABEEだけがチェック機関というわけではない。また、現段階ではJABEEは学部教育しか対象としないので、大学院と連動して6年一貫教育を指向することも考えられる。しかし、多くの大学はJABEE対応を目指して動き出しており、

本学科もその例外ではない。拙速な対応は避けるべきではあるが、かといって日本最後になるわけにもいかないであろう。事は卒業生が社会で胸を張って自分のスキルを主張し、将来国際的に活躍できる技術者とし

て認められるかどうかである。本学科同窓会にもJABEEに対する理解を深め、より良い教育のためには是非協力いただきたい。

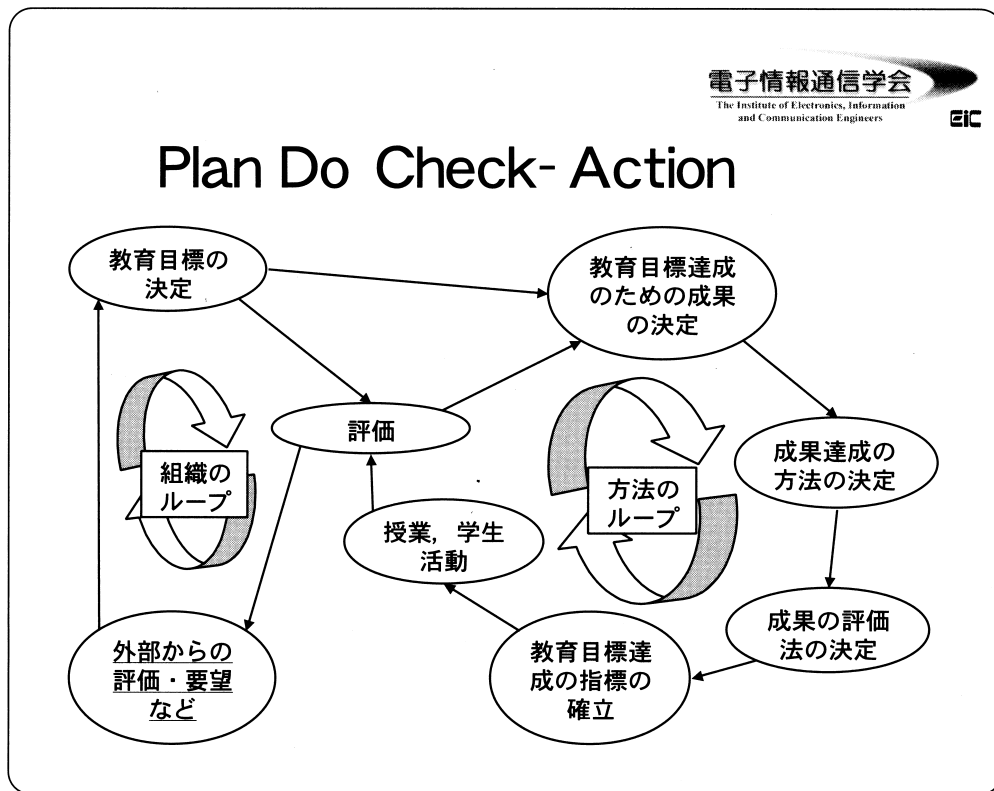


図 教育点検ループの例

(電子情報通信学会第2回JABEE審査員自主研修会(2002.3)資料より引用)

「命」

— 第1期生の個人としての濃い思い出を、此の字に託す —

昭和28年卒 竹 中 四 朗

毎年「同窓会誌」の計報欄に載る字数が増えつつあるので、敢えて此の字を選んでみた。一番新しい情報によると、今現在90数名になっているとの事。

先日、嘗て呑み歩いた2～3年後輩の方達に暫くぶりに「飲みに行かないか」と電話で声をかけたところ、皆さんが異口同音に「毎日医者通いをしているのに、とんでもないことです」と叱責された。私は思った。予備軍だな！と。

それで手近の辞書で「命」の付く語句を軽くちょっと摘み出してみた。

まず、「イノチ」と読み出すものとして。

命換え・命限り・命懸け・命果報・命辛辛・命代り・命較べ・命毛・命乞い・命沙汰・命勝負・命知らず・命尽・命弾丸・命玉・命綱・命取り・命盗人・命の親・命の際・命の境・命の瀬戸・命の洗濯・命の露・命の水・命拾い・命冥加・命貰い・命あつての物種・命から二番目・命長ければ辱多し・命なりけり・命に換える・命の二つあるもの・命は義に縁りて軽し・命は風前の灯の如し・命待つ間・命を預ける・命を落とす・命を懸ける・命を削る・命を捧げる・命を捨てる・命をつなぐ・命をとる・命を投げ出す・命を捨てる・命を棒に振る・命を的にかける・命を譲る。

そして次に「メイ」又は「ミョウ」と読むものとして。

命令・任命・命名・亡命・命日・生命・寿命・命数・運命・命中・天命・命運・命宮・命期・命根・命題・命禄・命婦・革命、等々。

と玉石混交の様様であるが、此の多数の語句の中で、特別に凄く光り輝き私の脳裏に振動するが如く特に感じるのは「天命」の語句である。

この「天命」で先ず思い出すのは、孔子の論語の中

の言葉「知命」即ち、「五十にして天命を知る」である。

天命とは辞書によると①天の命令。天帝の命令。上帝の命令。天から与えられた使命。②人の力ではどうにもならない、定められた運命。天運。天の命ずる運命。天によって定められた人の宿命。天から与えられた寿命。天寿。回り合わせ。「人事を尽くして天命を待つ」。③自然の寿命。自然の運命。天寿。等である。

我々東洋人古来の感覚として天は、思想上の天上界を指し地上界を支配下におく天帝とか上帝とかと称する神や仏、それらもどきが御座します、人知の全く及ばないところである。

冒頭、「最近計報欄にのる字数が増えつつある」と書いたが、続く言葉として「特に私より若い人達が」である。非常に悲しいことである。私の先輩達が先に逝くのは、自然の摂理でなんの疑問も抱かない。でも学生時代、共に学び共に遊んだ友達（同期の者、特に後輩達）の内、何人もが他界している。その人達は全てが古希（70歳）の声を聞かずに逝った。私の身辺だけでも10人近くいる。

川村真也・下鳥寿夫・小林信樹・山谷保夫・椎野治郎・戸村正夫・垣田豊治・田中武・我妻昌男等である。

この人達は、工学会で一つ鍋（釜ではない）の飯を食った仲である。特に、椎野治郎君・戸村正夫君は自分達も中央大学に勤めたいと云うので私が推薦し希望通り中央大学の職員になったが、椎野治郎君は定年間近に戸村正夫君は定年後に他界した。共に工学部電気工学科と中央大学職員での私の後輩であった。でも、最もショックだったのは義弟の我妻昌男君の計報であった。

閑話休題。

これからが我妻昌男君との運命的出会いで終生の絆ができ、そして中断する話である。

私が4年生になった時（昭和27年4月）何人かが新入生として工学会に入ってきた中に我妻昌男君がいて、数日後「親父が呼んでいます、家に来てくれますか」と云われ、俺は知らぬところには行かぬと云ったところ、うちの親父は「先輩の事を知っています」との返事。不安と不思議にかられながら我妻に案内されて行った先は、私がアルバイトのためついこの間まで毎日通っていた、目白の電気工事店の100メートル位手前の処であった。

そこが、我妻の親父様が経営している「食紅加工所」であった。初対面ながら親父様は、「やあ君だ君だ」と云いながら握手をされた。そして、毎日親父様が朝の7時頃「食紅加工所」の道路側の掃除をしていると、中央大学の角帽をかぶった威勢の良い学生が、早足で通って行く。それで昌男が中央大学に入ったと云ったら、親父様が冗談に「あの学生に逢ったら連れて来い」と云ったのが偶然にも私だった、と謂うことでした。昭和27年5月のことであった。

私が昭和24年、中央大学に入学した当時は池袋に住居があったが、昭和26年1月に貰い火で我が家は全焼した。火災保険に入っていなかったのと借地のため再建できず以来、宿泊出来ない筈の当時の駿河台中央大学工学会の部室を、警備課の職員と毎晩喧嘩しながら泊まり場所とし、アルバイトも工学会から毎朝6時頃出て行った。（この辺は以前、本会誌に書いた記憶がある）工学会の部室に帰ってくるのは、毎晩10時頃。連絡はメモか誰かが泊まる覚悟で待っていて呉れた。3年時は年の1/3は、アルバイトだった。電工だから、普通の大学生の3倍の給金を貰っていた。

4年生になって、アルバイトなんかやってられなくなり休業したが、しばしば我妻の親父様の所へはお邪魔して、酒などご馳走になった。そして私は卒業後、中央大学の職員になり住居も池袋のアパートに移り所帯を持ったが、我妻達との交際はそのまま続いていた。我妻が私の女房の妹と結婚したのはそれから10年く

らい経ってからだった。我妻は工学部卒業後、経済学部へ学士入学し重量挙部で活躍していた。一人っ子の私にとっては、非常に頼もしい後輩であり義弟であった。それが先に逝くとは・・・言葉がない。

先の孔子の「五十にして天命を知る」の次「六十にして耳順う」そして「七十にして心の欲するところに従いて距を踰えず」と。七十の時、息子の「伯魚」を、そして何千人もの弟子の中で特に可愛がっていた数人の内の「顔回」に、次の年には「子路」に逝かれ手足をものがれたと天を怨みながら慟哭し「天は我を滅ぼした」と云ったという。

何千年経っても近親者との、永遠の別れの辛さには変わりはないのだ。

演歌歌手の冠二郎の歌の中に「天命」（三浦康照作詞）というのがあり、その中の一節に「天がお前にくれたじゃないか、一つしかない尊い命」次に「天が与えた試練の鞭を」そして「天がお前の味方じゃないか」と云っているが、私も全く同感だ。「天」とか「命」とか「運」とかとの関わりは、それぞれ各自が自由に自分の都合のいいように解釈し、明日への活力とするべきだろう。

今回此の様なかたちで「電気科同窓会会誌」に、亡くなった学友達の氏名を再度掲載することに拠って、諸霊達も納得し改めて成仏し直してくれるものと信ずる。

斯様な次第で私の心の中でも慰霊と鎮魂が終了し、そして夫々の人達が生前の元気だった頃の容姿・言動を懐かしく思い浮かべながら、諸霊達に「本同窓会」の益々の発展と継続をお願いするとともに、今度は確実に逆転して私が諸霊達の後輩になったことを自覚させられながら話を閉じます。

猶参考までに、今生存している1期生は、1926年～1931年の間に生まれており、私は1930年生まれの72歳です。

合掌

“トドの詰まり文化論” その6

— ルクソール神殿のオベリスク（大石塔）の復元大作戦報告 —

昭和39年卒 菱 沼 一 夫

1995年に本誌への寄稿をきっかけにし、古代エジプト文明を今日の近代文明の基点と定義した「トドの詰まり文化論」も年を重ねてきました。随筆の段階から研究の段階に進化してきた。

「トドの詰まり文化論」は『古代エジプトの地を基点にし、東向きの文化はメソポタミア、ガンジス、揚子江文明の淘汰を通して今日の日本文化を形成している。一方、西回り「トドの詰まり文化」は古代エジプト時代に権力闘争に敗北・流出した文化はヨーロッパ文明（地中海沿岸文明）下地となりキリスト教の進展と共に増幅されヨーロッパを通過して、その“エッセンス”は今日のアメリカ国家の形成となった。』と“大胆”な定義をしている。この認識を元に最近10年の今日の世界情勢を見続けてみると、世界的な争いや各国政府の思惑や政治手法が“良く”見えてくる。「トドの詰まり文化論」の「実力」まんざらではない解析能力を持っているようだ。

昨年（2001年）の本誌に《その5》として7月に執筆した「トドの詰まり文化論」の物質文明の“憂い”を寄稿した。主にアラブ・パレスチナ（イスラム圏）と資本主義体制圏の価値観の相違に触れ、原始共産主義を前面に押し出して来ているイスラム原理主義の深層解析とそれとの“あつれき”の懸念を示した。

昨年9月11日は包装関係のカンファレンスがあってアメリカに滞在していた。西海岸に近い方に居たので早朝に事件の発生した直後のテレビ映像を観ていて（派手なアクション映像を流しているな）「こんなことが起こらなければ良いが」と私の懸念を思い起こしていた。何と現実であることを知った時、私の予知が来たかと直感した。カンファレンスに向かうタクシーの運転手に「パレスチナの仕業か?」と訪ねたが彼は「そうかもしれない」と答えていた。このときは何で

あるか何も分かっていなかった。（アメリカ政府の首脳部は察知していたようだが・・・）

皮肉にも日本に帰って直ぐにこの原稿が載せられた「同窓会誌」の発送作業を行うことになって、9月11日事件の「解説版」を各位に送ることになった。某先輩に「どうして予言ができたのか」とからかわれた。

「トドの詰まり文化論」の展開も机上思考実験から現地視察・調査に志向し始めた。

今回はフランス・パリのコンコルド広場にある1本の「オベリスク」（巨大な石塔）を何らかの形で元の設置場所のエジプト・ルクソールのルクソール神殿に戻そうと言う“壮大な計画”の報告である。

Obelisk（オベリスク）はギリシャ語で焼き串、古代エジプト語で「テケン」と言われている。長さ20～30メートル、重さ150～300トンもある。継ぎ接ぎせずに一塊の赤色花崗岩から切り出された石材を細工する。古代エジプトの中王国から新王国時代（BC2000～1300年頃）の王の神殿前に（権力の象徴として?）1対で建てられていた。日本の鳥居、墓標や塔婆のルーツではないかと筆者は考えている。上部が四角錐に仕上げられている。天空を指し、太陽信仰を象徴している。

ルクソールからナイル川の上流約200kmのアスワンから切り出された石材はナイルを下って運ばれている。今のアスワンには推定1,000トンもの大型の未完成（切り出し途中）のオベリスクが残されている。

しかし、小形のオベリスクの多くはローマ時代（BC30 - AD600）と近代（ヨーロッパの植民地時代AD1800 - 1900頃）に欧米に持ち出されている。パリのコンコルド広場のものも1815年に当時のエジプト支配者ムハマド・アリ（オスマン・トルコからの出向者）によってフランスに寄贈されたことになっている。

何故欧米人は自国に持ち出すことに拘ったのか?こ

の解析は今日の欧米人文化のルーツを理解する鍵でもあると筆者は考えている。

クレオパトラで知られるアレキサンダー等の“侵略者”によって古代エジプト文明の末期はヨーロッパの権力者によって支配され、ローマ支配時代に移行し、古代エジプト文明は「形式的」には消滅し、原始キリスト教の支配が取って代わった。初期キリスト教が権力支配の“道具”なり、人々の不満が鬱積して、イスラム教を出現させることになった筆者は考えている。

エジプトを“侵略”した人たちの祖先を思いはばかってみると、彼らの祖先は実はかつてはエジプトを支配していて、権力闘争に敗北して、エジプトの地を去った人達ではないか？

地中海周辺で勢力を蓄積して再起を期していたのではないか？この期間は1000年～2000年間に及ぶであろう。先報でも触れたが、フランス王朝の宮殿を観ると古代エジプト文化を色濃く反映していると思われる数々を発見できる。ナポレオンは皇帝になると1798年にエジプト遠征を行っている。歴史書では「遠征」と言うことになっているが、今日のアレキサンドリアに行くと、その“遺物”は明らかに侵略を目的にしていることが伺われる。現地の人の間では侵略であったことが語り告がれて博物館もある。

ルクソール付近のナイル川周辺の古代エジプト遺跡群は実は、AD1800年代頃迄は近代の人々には“尊重”されて居なかった。原始キリスト教徒、イスラム教徒によって“都合よいように利用されていた。ルクソール神殿の入り口の直ぐ左側の神殿の上には数百年前にイスラムのモスクが作られ、今でも使われている。

モスクの建設当時はナイル川の氾濫によって、大半は埋没していたものと思われる。

近代（1800～1900年代）のフランス、イギリス人の古代エジプト人DNAの“ノスタルジア”によって精力的に復元されたと考える。コンコルド広場のオベリスクの“贈呈”は彼らの復元後に行われている。ナポレオンは「遠征の戦利品」展示場として、ルーブル美術館を作ったのではないか。大英博物館の膨

大な所蔵品も植民地支配の戦利品ではないか。

ロゼッタストーンもギザのスフィンクスの髭の現物も大英博物館で見ることができる。

1800年代のエジプトの当時の支配者はオスマントルコの“出向者”であったから古代エジプトの遺跡に対する価値観は低かったと私は推定している。

イスラムにとって、偶像支配は“悪”であるから、遺物の移動はそれ程価値観に影響しないと思われる。

今日でも「観光資源」としての価値は認めるも民族遺産の保存の意識は高いとは言い難い。異教徒文明の象徴のアフガン・バーミヤンの石仏破壊で日本は大騒ぎしたが日本人の代表的「トドの詰まり文化論」意識の一端である。

ムハマド・アリはオベリスクの“贈呈”の返礼として、時計をフランスから貰っている。この時計は今もムハマド・アリモスクの一角に当時の様子を残している。モスクの訪問者曰く。この時計は今も持ってきた時と同じように動いていない。言外にオベリスクをごまかされて持って行かれたとの思いが汲み取れた。

コンコルド広場の写真取材にドイツからパリに向かう機中で機内誌のエジプトの記事を見ていたら若い機内乗務員が話しかけて来て、「エジプトに行くのか？」と聞いてきた。

「そうだ」、「その前にコンコルド広場のオベリスクの写真を撮りに行く。そしてルクソール神殿の写真に合成復元するのだ」と伝えた。

彼は、「俺が大統領だったらあのオベリスクはエジプトに返す」と言った。その考えには必ずしも単純に賛同するものではなかったが、共通の問題意識を持った人に会えて思わず握手をした。

パリでは大統領選挙の決選投票の直前で外国人労働者の排斥を主張する右翼候補が2位に付けていたのでパリ市内は騒然としていた。フランスにはアメリカと同様に民族としてのフランス人は居ない多民族国家である。オペラ座前の広場では右翼大統領阻止の大集会が開かれていて、この集会場の周辺の道路はロックアウトされていた。バリケードの人垣は髭を蓄えた直ぐにアラブ系と分かる若い人々であった。

イスラエルとパレスチナの紛争が激化している最中で、コンコルド広場の一角に位置している大統領府のあるエリーゼ宮殿の隣のアメリカ大使館は近寄ることができない厳戒態勢が敷かれていた。

アメリカの上・下院がパレスチナ／イスラエルの紛争でイスラエル支持を決議したニュースをインターネットで知って、アメリカがリベラル性を失いブッシュ政権が閉塞状況の中で、西側のリーダーとしてのシラクの活躍を期待していたから、フランスの大統領選挙の結果に期待するものが私にも大きかった。

結果はシラクの圧勝で終わったことを大英博物館の視察でロンドンに滞在している時に知った。

パリの人々は、今日のフランスの産業の下支えの立役者はかつて“輸入”された人々を含めアラブ、アフリカの人達であることを理解している証拠だと思った。

シラクの当選で「テロ事件」はかなり減縮されたとは私は評価している。

(彼らは、日本人はアメリカの手先だと思っているから) エジプトに着いて日本人の私から「ブッシュは“ダメ”だけどシラクが勝ってよかったね！」のコメントは、アラブ人の彼らに対しての(意外的な)何よりのお土産であった。[エジプト訪問の主目的は無償での品質マネジメント、工程改善の指導]

「トドの詰まり文化論」主宰者としては何とかルクソール神殿のオベリスクを何らかの形で復元してみたかった。パリのオベリスクを観光バスから見過ごして3年前からの思案である。

自ら撮影した素材写真による“Cyberspace”；Virtual Restoration (写真取材による映像復元)を企画した。

取材に当たり、基本絵柄を先に作って、パリとルクソールの建築物の双方のアンクル、光線、倍率等を配慮して、2002年5月に現地の特設取材をした200枚余りの正真正銘の撮影写真を使って、合成はコンピュータ上で行った。合成は菱沼技術士事務所の協力によった。

【写真 - 説明】：

- ①パリ；コンコルド広場のオベリスク。コンコルド広場の中心に位置している。台座にはどのようにして移設したかの図解が示されている。フランス人からのヒエラルキーは高い。
[May 02, 2002 撮影]
- ②カイロ；ムハマド・アリモスクの時計台、撮影時は整備中であった。今は動いていない。設置当時から動いていないと言う。[May 08, 2002撮影]
- ③ルクソール神殿正面；右側のオベリスクがパリ・コンコルド広場に移設されているのではない
彫像はラメセスⅡ世像、歴代の王の中でも遺跡が非常に多い。奥さんが70人余り、子供が200人以上いたといわれている勢力家。フランスのルイ14世はラメセスⅡに憧れていたようだ。【手前は筆者】
- ④“Cyberspace”；Virtual Restoration (映像復元)結果 [July 06, 2002]
1819年以来2塔のObeliskが揃ったルクソール神殿
意外とパリのオベリスクの方が保存状態が良いのが写真からも分かる
(コンコルド広場のオベリスクは定期的に化粧保全がなされていて当時状態を再現している。地元は砂漠化が一層進んだ結果か?)

※バックナンバーをご所望の方はコピーをお送りします。 E-mailを下さい

菱沼技術士事務所

E-mail: RXP10620@nifty.ne.jp

Tel.044-588-7533, FAX. 044-599-8085

〒212-0054 川崎市幸区小倉1232

Obelisk 故郷に帰る！“Cyberspace”（映像復元）



【写真-①】：パリ；コンコルド広場のオベリスク。コンコルド広場の中心に位置している。

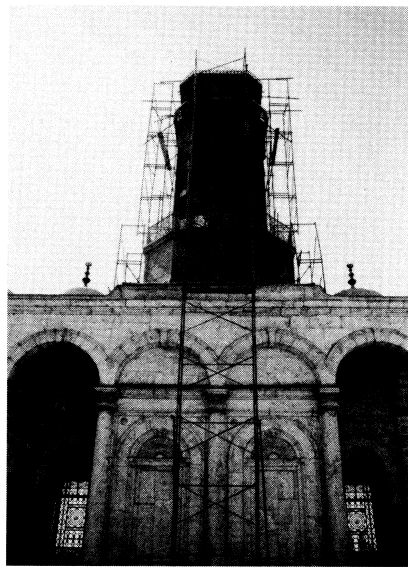
台座にはどのようにして移設したかの図解が示されている。

フランス人からのヒエラルキーは高い。

[May 02, 2002撮影]

【写真-②】：カイロ；ムハマド・アリモスクの時計台、撮影時は整備中であった。今は動いていない。設置当時からも動いていないと思う。

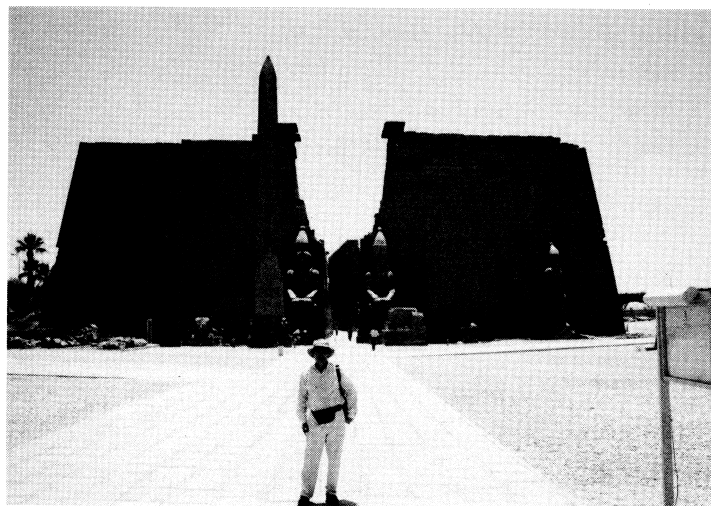
[May 08, 2002撮影]



【写真-③】：ルクソール神殿正面；右側のオベリスクがパイルド広場に移設されているのでない

彫像はラメセス二世像、歴代の王の中でも遺跡が非常に多い。奥さんが70人余り、子供が200人以上いたといわれている勢力家。フランスのルイ14世はラメセスIIに憧れていたようだ。

（手前は筆者）





【写真-④】 “Cyberspace” ; Virtual Restoration (映像復元) 結果 [July 06, 2002]

1819年以来2塔のObeliskが揃ったルクソール神殿

意外とパリのオベリスクの方が保存状態が良いのが写真からも分かる

(コンコルド広場のオベリスクは定期的に化粧保全がなされていて当時状態を再現している。地元は砂漠化が一層進んだ結果か?)

とうとう還暦を迎えた。最近、特に気になって仕方がないことは、殺伐とした人間関係についてである

そもそも、赤ん坊は言葉の代わりに、感情を全身で表現し、母親はそれが何を伝えようとしているかが、すぐさま分かる。こうした温もりはどこに行ったんだろう。

そういえば、母親になる年代の人達が「シルバーシートに座っても平気」、「迷惑をかけても“すみません”が言えない」、テレビで見たが「料理ができない」・・・最も一部のヒトだけどねえー。でも、その影響を大なり小なり受けるのが、この世の中・・・。

こんなコミュニケーションがどうなっているんだろう。新聞・テレビ等の報道でも目立ってきたのが、幼児虐待・育児放棄、先日の新聞では「最近の赤ん坊は笑顔がない？」どういうことか。

それよりも、夫婦・友達同士・職場・地域社会等々での挨拶・会話が少なくなっている。

改めて我が家も還暦祝いの席で、息子達家族を含めて問題提起をしてみた・・・安心した。

ある調査によると、夫婦間で「おはよう」「ご馳走様」等々の挨拶が交わされている家庭は30%以下であると言う。私も毎朝5時起きで犬とジョギングにでる。女房との挨拶の次に犬に「おはよう」である。公園で行き交う人との挨拶の何と気持ちのいいことか。でも、すぐに挨拶が交わせるのは約6割、何度か一方的に挨拶をしていて、やっと返ってくるのが2割、残りは未だに無言のまま、実に気の毒に思う。

個人主義が発展すればするほどに文明社会になればなるほどに、コミュニケーションは不足がちとなり、ますます重要性が増してくると言われる。躰の基本は、勿論家庭にあるが、学校・地域社会も重要な要素を持っている。

先日電車の中で、こんなことがあった。おばあちゃんが孫娘に「駅の名前が読めるんだ」「えっ、そんな計算ができるんだ」「英語が話せるんだ」と言いながら、靴のまま座席に上がっていても一言も注意しない。スポーツクラブの指導者が、技術だけ教えて、道徳を教えなくなっているのと同じである。

最も大人の世界も政治・金融・食肉・・・すべてが信じられなくなっている。これでは「今の子供達は・・・」は、とても言えやしない。

福祉の世界も「相手がボケてくるからトラブルは起きないだろうね」、教育現場での「ゆとりの創出は大人の論理で展開されてはいないだろうね」「いろんな補助金はちゃんとチェックされているんだろうね」・・・「選挙では自分の意思を貫いているんだろうね」と言った具合である。

ああー、いやだ、イヤだ。歳はとりたくないねえー。

ところで、このコミュニケーションという言葉が日本で最初に使われるようになったのは、1948年同志社大学の鶴見俊輔教授が「コミュニケーション・セミナー」という講座を開設してからとされる。教授は「ひとつの生き物から、もうひとつの生き物へ意味が伝わることを研究する学問」と定義づけた。

また、心理学者の宮城音弥さんは「人間か動物かに関係なく、サインまたはシンボルによって、心理内容が相手に伝えられて、相手の態度を変える情報力を持つ」と定義づけている。

今日では人間の精神的内容の行き来、伝え合いの意味の方が重きをなすようになってきた。所謂、よりよき人間関係を築き上げるために、お互いの情報を伝達しあい、効率的で人間性豊かな組織体を確立していくために、なくてはならないものといえる。

正に歳をとると仲間が恋しくなると言う。そんな扱

り所の一つに同窓会がある。私は昭和41年卒であるが、今では同窓会を楽しみにしている。

多くの先輩・後輩と誘い合っの「学会会の白門ゴルフ」、「電気OB会の懇親ゴルフ」、箱根駅伝その他のスポーツの応援から、旅行会など、実に素晴らしい出会いがあり、それがプライベートな世界までも楽しいものになっている。

各学年毎の集いにも発展しており、我が41年会も昭和61年の20周年記念には、70名もの先生

や仲間が集まり、その後、この総会の日に合わせて懇親を深めている。総会イコール、クラス会・・・各学年ともそんな気持ちで楽しみに、この日を待っているんじゃないかな。

・・・まずは今回、あなたも参加を！

還暦を節目に、つつい書いてみた。これをきっかけに、この同窓会報の片隅に気楽なりレートのコーナーをみんなで設けてみませんか。投稿をお待ちします。

同窓会新規新入会者のご紹介

平成14年5月1日現在

研究室名	入会者／対象者	入 会 者 名 (敬称略)
猪狩研	0 / 10	
稲葉研	0 / 13	
遠藤研	8 / 13	加藤 武 佐藤智雄 拜郷武利 佐藤雅士 平井由亮 南部将幸 *池垣秀樹 *菊山重之
木下研	0 / 10	
國井研	7 / 13	辻俊太郎 川北 梓 ト部英孝 渡邊正人 古賀 雄 菅井一朗 波越洋人
小林研	2 / 13	木野田和正 岩本賢太
榊原研	3 / 13	畑中 剛 合田淳一 高橋真輪
篠田研	0 / 10	
白井研	7 / 16	吉川 潤 *相沢朋之 *大久保洋伸 *小野憲治 *示沢寿之 *杉尾智子 *宮下裕之
杉本研	4 / 12	山田浩輔 櫻井宏樹 上田裕一 天野英明
高窪研	4 / 10	引地利行 北島 敦 初川健介 浅川陽一
趙研	0 / 11	
築山研	10 / 12	村上 祐 半田康太 八鍬宏司 藤原新太郎 深瀬大介 青木常真 三輪陽一郎 前田卓哉 木村隆洋 服部智宏
徳丸研	6 / 10	山崎正人 高安太一 中山智之 大岩 健 立花真一 杉渕 稔
山村研	0 / 15	
合 計	51 / 181	

*印：大学院在学あるいは卒業生

趣味を持つためには時間の工夫が必要ですが広い視野や交友には趣味をもつことが有効と思います。

伊勢高校の混声合唱団ではNHKのコンクールに出場しました。このときの仲間が三重県の合唱連盟のリードをしております。

大学では一年間中大グリークラブ（男声合唱）に所属しました。作曲者の清水修氏の指揮で「山に祈る」は当時主要な合唱団が演奏しました。グリークラブ（男声アカペラ）は文化系のメンバーがほとんどで演奏会の前には平日に2日間合宿がありました、このため継続すると留年することになりそうと思ひ残念ながら1年間で退部しました。

社会人としては転勤で豊橋・伊勢・川崎・千葉と移動したがその地区の合唱団に所属しました。

豊橋市の合唱団では愛知県代表として朝日コンクールに参加しました。この合唱団ではヨーロッパNO.1イタリアのアッシジ合唱団と競演しその後、アッシジ合唱団の協力でイタリア公演もできました。

伊勢では神職の全国組織である「永職会」によって企画され全国のミュージカル「スサノオ」を作曲者の青島広志氏の指揮で演奏しました。青島さんはラジオ・テレビにも良く出演するかなり有名な人ですが赤提灯に何度か飲みに行きました。

また三重県津市のコンサートでは早稲田・慶應・同志社・関学グリークラブOB合唱団（通称四連）との競演で100名の男声合唱に出演しました。この演奏会に出演するために北は八戸、南は熊本からメンバーが駆けつけました。

男声合唱の仲間8人で「NHKのどじまん」に出場

し熱演賞を受賞しました。「NHKのどじまん」は人気番組で応募者は1000～2000組あります、書類審査で300組程度に絞込み前日の予選で20組に絞り込まれます。書類審査で合格するために企画（選曲と年齢構成）に知恵をしばり書類審査、予選通過し本番に出場できました。

習志野市の津田沼混声合唱団は中大グリークラブの指揮者であった青木八郎先生の指導を受けました。青木八郎先生は満80歳を超えておられます、演奏会でオーケストラと合唱団の200名を、1時間連続指揮をする化け物のような現役の指揮者です。

今年は伊勢市の仲間がモーツアルトのオペラ「魔笛」を10月に演奏会の予定で進んでおります。これには参加できないが入場券販売をe-mailで宣伝応援しようとしています。

これらの活動を通じて沢山のひとと友達になることができました。

演奏会はプロジェクト活動です50名から200名のメンバーを組織化して演奏会の企画・団員募集・予算管理・練習計画・広告宣伝・入場券販売・演奏会ステージマネージメント等を行います。仕事と相反すると思われそうですが本格的に活動するには企業人としてマネージメント力が大いに発揮できます。

一昨年から資格試験受験や仕事の都合でこの2年間は趣味を中断しています。

余裕ができれば渋谷で練習している中大グリークラブOB会の白門グリークラブにをのぞいて見ようかと考えております。演奏会に出演するときは是非聴きに来てください。

日本の将来を担う若者達は、今何を考え、これからの時代をどのように生きようとしているのだろうか。大学・短大進学者が5割を越え、専門学校進学が2割、合わせて7割以上の方が、いわゆる高等教育機関へ進学している。しかし、企業は未だバブル崩壊から立ち直れず、リストラや倒産の嵐が吹きまくっている状況で、就職戦線は大変厳しいものがある。当然大学は出たけれど・・・就職できない人も数多くいる。結果としてフリーターやアルバイトに走る者、あるいは全く仕事もせずに親に面倒を見てもらっている者、様々である。

仕事が無く就職が難しくなるのも当然で、生産的な工場はどんどん中国へ行ってしまっている。人件費を考えれば当然のことで、日本に比べて1/5～1/10の人件費のわけですから、このような現象は今後も益々増加することでしょう。このような日本の社会情勢の中で、若者達に頑張れ、と言っても無理なのかも知れない。ましてや今の中年以上の人達に比べれば、体力も気力も弱くなっている。日本経済の昇り坂の時代に生まれ、バブル時代に育った彼らは小さい頃から欲しい物は何でも与えられ、労働や家の手伝いなどしなくとも、それらを易々と手にすることができたのである。小学校・中学校・高校と、学校で勉強する意味すらわかっていなかったのではなからうか。昔は勉強して、いい学校へ行って、いい会社に入らないと欲しい物を得ることは難しい、という社会であったが、そんな環境の中で彼らは育っていない。起こるべくして起こった現象と言っていいでしょ。

かと言って、このままの現象が続くと、どこかの週

刊誌に載っていたように、日本は中国に飲み込まれてしまう、といった図式が目に見えてくるようである。ここ4年ばかり毎年中国へ行って、小、中、高、大学を見て廻りましたがけれども、中国の子供達、学生達の勉強ぶりは、まさにすさまじいものであった。

日本の戦前から昭和20年代、30年代のような感じではなからうか、と思ったものでした。ある中学校で教室を覗いて見たら先生らしき人が見当たらない。それでも誰一人雑談するでもなく、辞書を調べたり、レポートのようなものを書いていたりしていた。私が案内の人に、この教室は何の授業をしているのかと聞いたら、“自習のじかんです”ということでした。教師が足りないので、自習の時間を多くしているのだ、ということでした。また、中国は広大な国土で、家が日本のように密集していないことと、学校の数が多いので、通学は非常に難しく、学生寮が多い。部屋の中を見てびっくり、狭い部屋に2段ベッドがびっしり、あとは通路しか無い。ベッドの上に板を渡して勉強している人もいた。不在のベッドの上は毛布やパジャマがキチッとたたんで置かれ、全て整然としていた。正に軍隊式を想像したほどである。日本の今の若者達がここまで、できるであろうかと思ったとき絶句あるのみでした。やはり日本の将来は中国に飲み込まれてしまうのであろうかと。

そうさせないためには、そうならないためにはどうしたら良いのか、答は簡単には出ないけれども、やはり教育に負うところが多いのではなからうか、と思った次第でした。

同窓生からのお便り

(平成13年度返信葉書からの転載、都道府県は現住所)

毎回ご案内を頂き有り難うございます。“同窓生からのお便り”興味深く拝読しました。懐かしいお名前を各所に見受け、現役時代を思い返しています。元気な間は、できるだけ同窓会に出席させて頂きたいと考えております。

(元教員 東京都 深井 昌)

古希を迎え体力維持のため、ウォーキングやダンベル体操を日課とし、ゴルフに熱中しています。今年は運良く所属クラブのグランドシニアチャンピオンになりましたが、ゴルファーの夢であるエイジシュート達成を夢みて精進している昨今です。

(昭和28年卒 神奈川県 鈴木克郎)

平成9年に狭心症にて入院、その後、元気に趣味の園芸、カメラ、ゴルフ等にて余生を送っています。

(昭和28年卒 東京都 田中平八)

ボランティア国際年記念シンポジウム分科会出席、その他、千葉女性センター祭り、千葉三越デパートの消費生活展、小学校高学年エコ体験コース、等々のNGO・NPO顧問として忙しく、デジタル時代にも関わらずコンピュータやSE経験も忘れてボケ防止に努めています。

(昭和29年卒 千葉県 木野村秀夫)

お蔭様で元気でおります。制御機器関係の仕事ですが、現役で張り切っています。今年もいろいろな都合で同窓会に出席出来ませんが次期には必ず出席します。

(昭和29年卒 山形県 清野 剛)

年を取ると、~のつもりが気になる。若い者には負けないつもり、体力は有るつもり、対応力は有るつもり…… どうもこれ等のつもりが世の中の動きを阻害

している感を強く受ける。その最たるものが、日本を良くしているつもりの政治家であろう。このつもりの結果責任は、つもりを信じていた人でなく、他の人が負うのが常である。我々の周囲にも、つもりを信じている人が居るのではなからうか。若い人を信じ、彼らの能力を伸ばしてやりたいものである。

(昭和29年卒 愛知県 平岡浩司)

サンデーマイニチで元気に過ごしております。毎月、旧職場のOB連中とゴルフを楽しみ健康に努めています。

(昭和29年卒 神奈川県 柳澤利文)

やっと70才を迎え、足腰共に老化しましたが、歩く事に精を出し毎日の日課として午前中ウォーキングを始めております。昨年、旧式のコンピュータを買い換え、インターネット、Eメールを手がけボケ防止とし専念しております。

(昭和29年卒 東京都 山本 憑)

1991年から米国カリフォルニア州、後半はニュージャージー州に滞在し、2001年9月末海底ケーブル布設関連会社を退職しました。落ち着いたら米国滞在の経験を生かしながらボランティアに参加の予定です。

(昭和30年卒 東京都 板谷良一)

大学に入学した年にヨット部に入り、1年間しごかれました。また、バイオリンのレッスンを始めたのもこの頃です。これが今も私の趣味として残り、アマオケで楽器を弾いたり、ゴールインと言う名のクルーザーヨットに若い人達を誘ってクルージングを楽しんでいます。このヨットに乗った人達は、その後、皆それぞれに結婚にゴールインしています。

(昭和30年卒 東京都 大木榮二)

閉塞感が漂う建設市場の中で、北海道内で生き残りを懸け頑張っております。

(昭和30年卒 北海道 田中 亨)

完全な年金生活に入り、町内会の幹部役員をやりながら老人会の行事にも参加し、元気に日々を送っております。楽しみは年2～3回の旅行と旅の記録を写真として残す事です。整理してアルバムに残す事も大変ですが楽しみの一つです。

(昭和31年卒 神奈川県 川喜多良行)

毎々会誌を送付頂きありがとうございます。財政状況の悪化に驚いています。事務局の皆様の御苦勞に感謝いたします。

(昭和31年卒 神奈川県 村島 清)

中小企業コンサルタントですが、不況のわりに仕事少なし。話がるのは、どうにもなくなってから企業です。

(昭和31年卒 東京都 吉村文吾)

長年、医療業界に勤務していたので、平成7年に定年退職後も関係会社のお手伝いをしながら、現在も在宅医療（主に酸素供給）に協力しております。若い時、活発に働いてもヘビースモーカーの人も老人になると、体調が悪くなり酸素を補助しないと苦しくなる人が多くなります。長寿化時代、快適な健康維持は若い時からの生活が関係して来ます。

(昭和32年卒 東京都 青木国吉)

今年の6月末をもって、関工第一企業(株)を退職しました。現在は、関電工神奈川支店のOB会である「神交会」の事務局長と歴史・文学散歩部会の部長をしています。また、地元の自治会の副会長・会計をしながら、読書や散歩、旅行などをしています。

(昭和32年卒 神奈川県 青木義雄)

平成13年2月、70才の“古希”を迎えました。「古来希なり」は昔のことで、平均寿命が伸びた現在では70才は珍しくもないので、“近多”（きんた）、「近来多し」と言うそうです。リタイアして満5年、

現役中でできなかったことに取り組みたいという希望どおり、やることは沢山あり“悠々自適”-Live free worldly cares-の日々を楽しんでいます。

(昭和33年卒 神奈川県 永井 甫)

事務局の皆様、御苦勞様です。お蔭様で本年5月より無借金経営となり大変楽しくなりました。ハイテクアッセンブリーの方は多忙をきわめ、10月より工場の増設工事に入ります。諸兄の御健勝を祈ります。

(昭和34年卒 神奈川県 佐々木 裕)

仕事に、旅行に、農園に、と忙しい毎日を過ごしています。平成13年11月よりシニアという事になり勤務しています。

(昭和34年卒 埼玉県 関 光夫)

アメリカで発生した同時多発テロは、全世界にその影響を及ぼしています。テロ発生の少し前にニューヨーク、発生時スペインにりましたが、平和の大切さを身をもって感じています。また、国の違い、民族の違い、文化・宗教の違い等の難しさも考えられます。私の場合、仕事を通じ、民間外交の一端なりとも役に立てばと努めています。

(昭和34年卒 東京都 塚原達雄)

現在、アルバイト少々と月1、2回程度の山登りを楽しんでおります。「同窓生からのお便り」を楽しみにしています。

(昭和34年卒 神奈川県 鶴瀨和四郎)

平成8年11月に(株)学研を定年退職（37年勤務）、現在は趣味（中大音研では、プラス、スイング部所属）と地域活動をしている。

(昭和34年卒 千葉県 茂木晃二)

役員、幹事、事務局の皆様、大変お世話になりました。元気な証明みたいなものと思い、今年も総会に出席します。

(昭和34年卒 神奈川県 渡部一雄)

平成13年5月、北京で第一回「中日科技論壇 - 北

京地区風沙与環境学術会議」を開催しました。来春も、イオングループ環境財団からの助成金を受け第二回を開催予定です。

(昭和35年卒 神奈川県 橋村武司)

大変お世話になっております。さて、中大電気同窓の唯一の情報誌が赤字にと拝見、ビックリしました。会誌の発行に深く感謝いたしております。近年の卒業生も3～5割程度の入会しかないと伺い二度ビックリ。問題点を解決し是非とも発行を続けていただきたい。会誌発行事業費はスグ振り込ませていただきました。同窓会も欠席から出席といたしました。

(昭和35年卒 茨城県 村井康男)

不況の影響を受けて、仕事は激減していますが、何とか好きな特許の仕事を続けています。今は良い仕事をする事 に生きがいをこめています。

(昭和35年卒 東京都 斎藤春弥)

歳を経て趣味は本業より優先し人生に巾を持たせてくれます。思えば在学中、工学部では中大美術研究会に所属し油絵を描いていたのは私だけでした。専門の電気と分野の異なる絵の世界は心を和ませてくれます。今は100号の大作を描き絵の世界に浸っています。同窓生で油絵仲間はおられませんか？共に画壇を目指して頑張れたら嬉しく思います。

(昭和35年卒 埼玉県 田伏良雄)

大成建設(株)を定年退職後、子会社の成和コンサルタントで働いています。

(昭和35年卒 東京都 畑山雅彦)

平成13年1月、会社を完全に退職し、現在は自宅で遊んでいます。ただ在職当時の経験を生かして、水中音響機器や機雷戦システムの海外文献の翻訳を行い、興味ある方々に配布したり、頼まれてソーナー関連技術についての講演を行ったりして結構充実した定年後の人生を過ごしています。

(昭和36年卒 東京都 斎藤嘉範)

現在62才、定年なしの現役続行中です。地場産業

の一つで木工芸品の製造販売に携わっています。地域の学員会小田原白門会で先輩後輩と楽しくやっています。

(昭和37年卒 神奈川県 及川芳美)

遠藤先生に指導を受け卒業した一人ですが、残念ながらOB会に参加できませんでした。今後の御発展を念じております。

(昭和38年卒 大阪府 池田昌樹)

現在は現役にて勤務致しておりますが、そろそろ任期満了になるかもしれません。外見上はスコブル元気ですが、首やヒザの関節等弱っています。従って4年前よりゴルフは中止しております。皆様にお会いできる事を楽しみにしています。

(昭和38年卒 東京都 五本 武)

定年後、ボケ防止の為に自分に投資することにし、生涯学習インストラクター(1級デジタル家電、2級社会保険労務士)の資格を取得。H14年度よりボランティア活動に参加の予定です。又、週3日ジムに通い体力の維持?忙しい毎日です。

(昭和38年卒 千葉県 大西雅和)

昨年、還暦を迎え38年勤務した日立エレベータ(社名変更し、現:日立ビルシステム)を退職し系列会社のサイタ工業に転属し、後輩の指導のお手伝いをしております。もうそろそろ自由の身になり楽しい余生を送りたいと思っています。

(昭和38年卒 千葉県 木本晶久)

母親の介護のため、あきる野市に4年間住んでいました。今年初めに他界したので、また、元の住所に帰って来ました。会費の件、しごく当然と思います。年金生活ですが喜んで送金します。今まで無かったのが判りませんでした。今回で了解しました。

(昭和38年卒 栃木県 山本立夫)

H13.10～H14.4無職。元気に頑張っています。電気の研究テーマがあまりホームページに載っていないようで寂しい。頑張ってください。

(昭和39年卒 愛知県 青野 満)

元気でやってるよ……！！ 幹事大変ですネ、御苦
勞様です。弊社のホームページにアクセスして下さい。
<http://www.proposs.co.jp>

(昭和39年卒 東京都 薄井道男)

毎日元気にハッピー定年を楽しんでいます。ハッピー
一定年の仲間を募集していますので連絡下さい。

(昭和39年卒 東京都 舟木隆之)

電力会社を退職し、関連したコンクリートポール等
を製造するメーカーの役員として就任し早や1年を経
過し、最近の厳しい経済環境により日夜コストダウン
と会社収支改善に頭を悩ませています。還暦近い年令
ながら、健康にて活動出来る幸せを感じています。

(昭和39年卒 埼玉県 齊藤榮喜)

その内、会社をリタイヤしたら同窓会に行きまっせ
え！

(昭和39年卒 京都府 梶村 健)

自由時間を有効活用し、ゴルフ、旅行、友人との語
らい、別荘管理、等々、楽しいことを最優先してやっ
ています。

(昭和39年卒 埼玉県 桑原孝紀)

未だ営業本部長として忙しく働かされています。何
れ近い将来ゆっくりする事になるでしょう。

(昭和39年卒 埼玉県 三浦元一)

いよいよ来年は定年退職となります。

(昭和40年卒 埼玉県 門原健男)

今年から武蔵野市倫理法人会事務長を兼務し、少し
ボランティアを始めました。

(昭和41年卒 東京都 岡本 泉)

全ての仕事を後輩に託し、顧問として静かな日々を
過ごしています。ほぼ2年後に定年を迎えます。

(昭和41年卒 埼玉県 河西宣良)

平成13年4月1日付で役所を退職し、新しい職場
で頑張っております。民間企業は厳しいとは聞いてお

りましたが、正しくその通りと実感しております。

(昭和41年卒 埼玉県 柳下敏男)

東京電力を定年退職して早や3年、現在、子会社の
東電ピーアール(株)に勤務しています。最近、同窓会
をはじめ、ゴルフ等色々と参加していますが、そのた
びに新しい出会いがあり、毎朝のジョギングに始まる
一日一日の生活リズムの中に組み入れながら、ますま
す楽しい人生を送っています。どうぞよろしく！！

(昭和41年卒 東京都 田口昭夫)

このコメントが載る時は任期を終えておりますが、
今年度熱海南ロータリークラブの会長を務めておりま
す。例会は毎週金曜日「熱海後楽園ホテル」で12:
30より開催しております。ロータリアンでしたらメ
イクアップを、一般の方でしたら宿泊をお奨めします。
大きな素晴らしいホテルですよ。

(昭和41年卒 静岡県 山田利明)

平成13年の3月に八千代市に引越しました。
緑が多くて良い所です。昨年は、1級電気工事管理士
に合格し、今年は電験3種合格、来年は電験2種を受
験しようとしています。

(昭和42年卒 千葉県 秋田隆史)

第1の職場を卒業し、第2の職場で元気でやってい
ます。福沢先生が最近活字にみえないが残念ですね…

(昭和42年卒 東京都 荒井 仁)

今後は、もっと出席者が増える様、私も連絡を取り
たいと思います。幹事の皆様御苦勞様です。

(昭和42年卒 神奈川県 中庭源内)

昨年、2度目のリストラに会い、約1年のブランク
期間を経て、光通信部品関連の会社に再就職できま
した。慣れない光関連の知識、技術の取得に悪戦苦闘
しております。特にレーザー光源の基本になる半導体
レーザーを勉強しておりますが、中々頭に入りません。
数式だらけの本、資料に30年以上若返るつもりで頑
張っています。後、何年勤められるか？

(昭和43年卒 神奈川県 今村雅明)

会誌を拝見し、仲間の活動を楽しんでいます。がんばって下さい。会誌は大切です。仲間を結ぶ手と思っています。

(昭和43年卒 埼玉県 長浜宣郎)

米国のテロ以来、私の職場である浄水場もテロ対象となり得るのではと監視体制がより一層強化された。水道事業も厳しい時期、早く明るい話題が飛び交う社会にと思っています。命の水を大切に、環境改善に皆さんご協力をお願いします。

(昭和45年卒 神奈川県 阿部利和)

同窓会の役員・幹事の皆様にはご多忙の中、熱心な運営をいただき感謝しております。

毎年、同窓会誌をお送りいただき、大学の様子をうかがいしることができていました。総会や懇親会には出たいと思いつつ都合がつかず、昨年、ようやく、32年ぶりに参加することができ、旧来の皆様方とお会いすることができました。一目では見知らぬ人と思った方々でも、数分のうちに学生時代の顔に戻り、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

さて、同窓会誌発行事業費ですが、「お知らせ」では、毎年会誌発行および郵送に約120万円以上必要とありますが、通信費及び印刷費で100万円を使用している事実に注目、おそらくこれは会誌の印刷とそれの5,500名の方々への郵送費だと思います。これを削減すれば、毎年50万円の赤字は解消されるのではないのでしょうか。

削減する当然の手段としてE-mailの利用があります。メールとホームページの活用で、現在の年一回の会誌送付と総会・懇親会開催案内以上の効果があると思います。E-mailに馴染まない方々がいらしたら、その方々には、ホームページとメールを印刷したものを郵送(郵送費実費は徴収)するようにしたらよい。今や、同窓生のうち、メールを使いこなす世代の方が、絶対多数なのではないのでしょうか。これらの試みなく、事業費を納めない者には情報を絶つというのは、同窓会を縮小させるだけではないかと思えます。社会を支える基盤技術と先端技術の「電気電子情報通信」を掲げる大学の同窓会の運営としては・・・

ホームページ充実のため、あるいは、E-mailアドレ

ス整備のために、パソコンの購入やアルバイトの使用などの費用がないから事業費を募るということならば納得します。

以上、役員の皆様方が十分検討された結果、やむをえなく事業費徴収となったのだとは思いますが、お送りいただいた資料だけでは納得できず、単純に思ったままを言わせていただきました。

(昭和42年卒 鳥取県 実森彰郎)

由ありて、H12.10より転職し、ふるさとUターンを果たし老母と同居を始めました。幸いな事に、在京時と同種(通信建設業)の仕事に就き、何とか根を張り、花を咲かせればと考えていますが、まずは長年の住宅ローンから開放され、ホッとしているところです。

(昭和45年卒 愛知県 青井 優)

行政書士の仕事を始めて3年目になりました。最近の動きとして、特許の有効活用が国の施策としてあり、大学や国公立の研究機関で考案された特許を具現化するために、技術力の有る中小企業とJointして補助金を出し、活性化させようというものです。我々仲間でも「学」と「産」を結びつける仕事をしている仲間もいるようです。

(昭和45年卒 東京都 保坂早苗)

娘と息子が各々大学受験、高校受験です。精神面の対応は良いのですが資金面の対応が大変です。昭和48年電気工学科1組の式根島旅行組の皆さんお元気ですか？

(昭和48年卒 愛知県 森本竹克)

常に感じる事であるが、自分も含めて中大出身者は自己顕示欲が無い者が多く、このままでは他の私大出に負けるケースが続き、存在価値が薄くなるばかりで心配である。もっとアピールしましょう！

(昭和49年卒 東京都 四方田淳一)

大学を卒業し、二十数年たちます。現在、マツダエース(株)へ出向し、営業担当課長として日夜頑張ってます。子供の関連では、小・中・高のPTA会長、副会長

を引き受け、10年以上も頑張っています。

(昭和50年卒 広島県 溝手 博)

留守宅住所は変更ありませんが、10月下旬よりシニア海外ボランティアとしてパラグアイに赴任します。

(昭和50年卒 東京都 宮森和彦)

昭和52年卒、福沢研OBです。在学中から仲が良く、卒業してからも毎年の新年会、5年毎の旅行と活動を続けています。

この度、仲間内のホームページを同窓会ホームページリンクに登録して頂きました。在学中にはとても想像できなかった事ですが(当時の福沢研はマイコン制御の応用システムを研究していた)、とても便利になった最近のIT技術を使って、同窓会をより発展させて行きたいですね。

(昭和52年卒 神奈川県 平井正人)

現在、日本技術士会で修習技術者支援実行委員を務めています。技術士第一次試験合格者(修習技術者)の修習活動の支援が、主な役目です。

今年も同窓会の日と、この委員会が主催で行う修習技術者を対象としたセミナーが重なり、また同窓会に参加できなくなってしまいました。今年こそはと思っていたのですが、申し訳ありません。大学を離れて20年以上経ち、当時お世話になった先生方の顔が、大学から少なくなっていく寂しさを感じます。このような中で、年1回の同窓会で、当時の先生方にお会いする機会があることは、非常に大切なことのように思っています。従って、同窓会が今後継続し、発展されることを心より祈念いたします。

(昭和53年卒 神奈川県 小林 進)

H13年7月、水泳世界選手権大会のプールは、ヤマハFRPプールが採用されて、2週間で設置し、大会終了後1週間で撤去した。この仮設プールのノウハウを今後、世界へPRしていきたい。新築工事に比べて、既存施設への仮設プールは、事業費も10分の1以下で済み、管理維持費も発生しないなど、メリットが多い。今後のプール業界のステップアップにつながると思う。

(昭和54年卒 埼玉県 高橋宏志)

風力発電所の建設を行っており、今年は東北に約2万5千KWの発電所を運用開始させます。

(昭和56年卒 神奈川県 沼田徹夫)

大衆大学の性というのか、今は積極的にまごろうという気にならないのです。大学の時の関係者と接触する機会というのがまったくありません。遠い昔の実在通信のようで、なつかしい限りです。

(昭和57年卒 東京都 赤星泰生)

非破壊検査専門のベンチャー企業を設立し、代表取締役として頑張っています。中央大学で学んだ基礎を生かし、技術士として技術コンサルタント業務にはげむ毎日です。幹部候補として中大卒の方、求人しています。

(昭和59年卒 東京都 齋藤 豊)

卒業後、15年と半年の間、2人の子の出産、育児を経験しながら仕事を続けています。これまでに就職のリエゾン活動や資格試験の受験会場として、何度か大学を訪れる機会がありましたが、今ではすっかり足が遠のいてしまいました。これからも中央大学電気電子情報通信工学科のますますのご発展を祈念しております。

(昭和61年卒 東京都 荒井あけみ)

御無沙汰しています。私は仕事に恋にと苦悩の日々を送っています。今年も同窓会に出席させていただこうと思っています。先生方にお会いできることを楽しみにしています。

(昭和61年卒 東京都 八巻英明)

約2年間の単身赴任(東京→名古屋)を終えて、今年の4月に東京に戻ってきました。名古屋では、電源高調波についての対策を行ってまいりました。現在は、太陽電池評価技術についてのプロジェクトに加わっています。

(昭和62年卒 埼玉県 高橋信一郎)

ベトナムのホーチミンで働くようになりましてから4年が経ちました。本人いたって元気です。今だに独

身です。誰かベトナムに行ってやって下さい。母より
(昭和63年卒 東京都 平本智久)

ごぶさたしております。現在2人目妊娠中です。まだまだ会社は続けるつもりでがんばっています。市川先生もお元気で!

(平成元年卒 埼玉県 小峯明美)

大学卒業から気付いたら5年以上たち、入社したNTTからNTTコムウェアへの出向、技術系から企画系の業務への変化とめまぐるしい身の回りの変化に追われる日々を送っています。そのような日常の中で同窓会誌が送られてくるととても懐かしい気分になります。電気電子情報通信工学科の更なる発展をお祈りします。

(平成7年卒 東京都 瀬田英太郎)

7月に結婚、9月に渡米と生活環境が激しく変化した1年でした。現在、テキサステック大学で、パルス

パワー放電の基礎研究を行っています。また来春には編入学していた放送大学を卒業する予定で、次の目標を探しています。

(平成9年卒 岩尾 徹)

まだまだ未熟者の私ですが、新たな職場で働くことになりました。新たなフィールドでどれだけ活躍できるか分かりませんが、とにかく頑張るのみです!

(平成10年卒 東京都 住山 望)

《事務局から》

皆様からお寄せいただきましたコメント、ご意見を誤字・脱字を訂正したのみで、文字使いや言いまわしをそのまま転載しました。

多数の方々から、貴重なご意見や近況の報告を頂き感謝しております。今後もこの企画を続けますのでご支援下さい。

『編集後記』

昨年まで編集を担当されていた市川先生が退職され、代りに今年から編集を担当することになりました。不慣れなため、どんな出来映えになるか心配しております。

幸にも多数の皆様から原稿をお寄せ頂き、例年になくページ数も多く読み応えのあるものになりましたが、郵送費の関係で掲載を見送った投稿もあり、関係者にお詫びいたします。

また、3月末に定年退職された猪狩教授に執筆をお願いしたのですが、退職後に体調を崩され入院されたとのことで、原稿を頂けませんでした。1日も早いご本復をお祈りします。

昨年に引き続いての「同窓生からのお便り」は、会員の皆様の日常が垣間見えるようで楽しい限りです。今後も会誌の目玉として定着させるため、返信ハガキにコメント・ご意見など何でも結構ですからお書き下さるようお願い申し上げます。

会誌発行事業費への皆様からの御協力(詳細は5ページ参照)により、会誌を発行することが出来るようになり感謝に堪えません。11月9日(土)開催の「総会・懇親会」で皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。

中大電気同窓会会誌 第39号 (2002年10月)

発行所 中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8851 東京都文京区春日1丁目13番27号

FAX(03)3817-1847

発行・編集人 天野浩志

同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成14年度「同窓会総会」を下記の通り開催致します。また、総会終了後には懇親会を開催致しますので、多数の会員の皆様にご出席を賜りたくご案内申し上げます。

【記】

☆総 会・懇親会

日 時：平成14年11月9日（土） 午後2時～午後5時

会 場：摩天楼 大飯店

飯田橋セントラルプラザ 20階

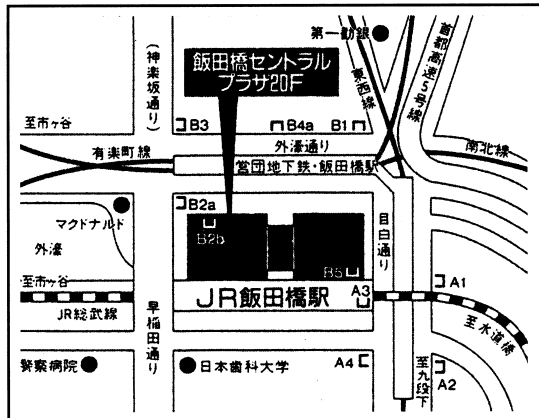
会 費：7,000円

摩天楼大飯店

東京観光グループ

飯田橋プラザ店 セントラルプラザ20階

〒162-0832 東京都新宿区神楽河岸1-1/セントラルプラザ20階



《ACCESS》

- ・ JR「飯田橋駅」
神楽坂口から 徒歩2分
- ・ 地下鉄「飯田橋駅」
B2b出口から 徒歩1分

地下鉄有楽町線・南北線B2b・東西線B5出口・JR線飯田橋駅は西口が便利です。(B1に駐車場完備)

☎ 03 (3267) 5800(代)

お願い

会員の皆様にはご負担をお掛け致しますが、同窓会経費節減のため「返信用葉書」にはお手数ですが50円切手を貼付し、10月末日までにご投函下さるようお願い申し上げます。